

ヘッドライトを効果的に活用しよう！

ヘッドライト（ロービームとハイビーム）の照射距離

前照灯（ヘッドライト）の照射距離は、

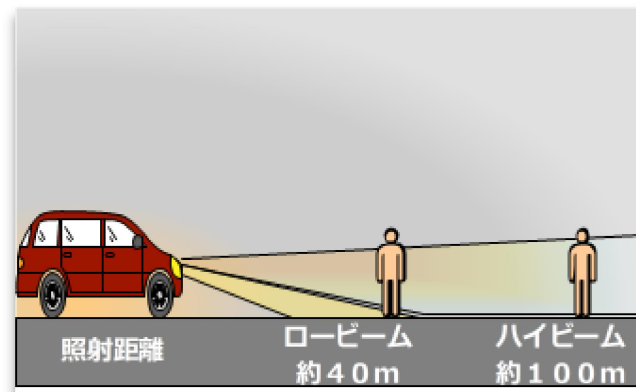
下向き（ロービーム）で約40メートル

上向き（ハイビーム）では2倍以上の約100メートル

先を照らします。

暗い道では、ハイビームを活用し、交通量の多い市街地などや、対向車（自転車を含む。）や先行車がいる場合にはロービームに切り替えましょう。

※こまめなライトの切り替えが、交通事故防止のポイントです。



もし、交通事故を起こしたら・・・

運転者の義務（救護措置義務と報告義務）道路交通法第72条

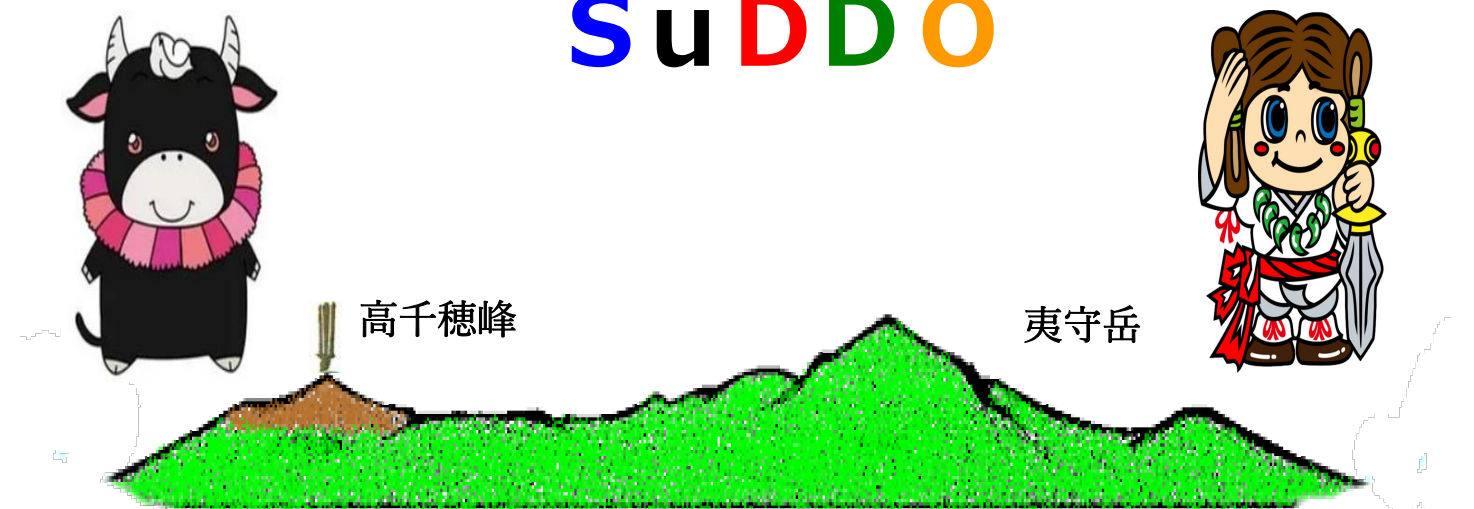
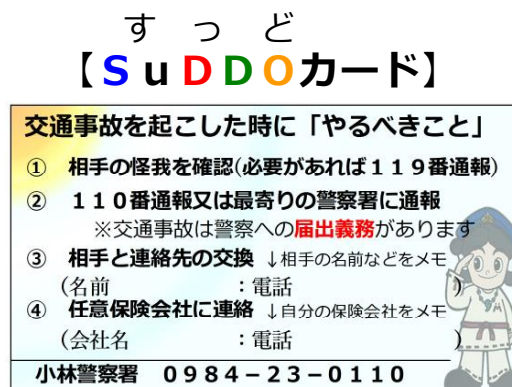
交通事故を起こした時には、運転者は、ただちに車両の運転を停止すること、負傷者を救護すること、道路における危険を防止すること、事故の発生した日時、場所、負傷者数や程度などを警察官に報告することが義務づけられています。

すっど ～SuDDOカードを活用しよう～

SuDDOカードには、交通事故を起こした・遭った時にその場で
やるべきことが書かれています。

すっど
※有事に備えてSuDDOカードを車に1枚
置いておきましょう。

すっど
※SuDDOカードは、小林市役所・高原町
役場・小林警察署で配布しています。



小林市・小林警察署・高原町

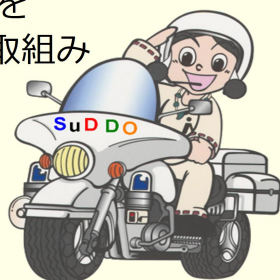
発行：小林警察署 交通課

「安全運転S^すu^っD^どD^どO」で交通事故を防ぎましょう

安全運転S^すu^っD^どD^どOとは・・・

交通事故防止のための「運転のあり方」と「注意すべきポイント」を運転者が理解・意識して運転することにより、交通事故ゼロを目指す取り組みです。

S^すu^っ・・・スマート運転・シグナル・ストップ
D^ど・・・ダイヤモンドで減速
D^ど・・・ディフェンス（防衛運転）
O^ど・・・交通事故ゼロ



S^す スマート運転をやってみよう！ 「スマート運転」って、どんな運転？

車内外の環境、道路状況などに応じて適切な動作を判断して運転することです。

【スマート運転 ポイント その1】

● 相手の立場を考えた運転を意識しましょう！

自分の運転が周りからどういう風に見られているかを意識しましょう。

例えば、「この車間では、前の車が煽られていると感じるかもしれない。」「一回のブレーキによる減速だと、後ろの車がびっくりするかもしれない。」などです。

周りからの目を意識することで、早めの合図やブレーキ、こまめなライトの切り替えが意識できるようになり、**あおり運転などのトラブル防止**にもつながります。

【スマート運転 ポイント その2】

● ゆとりを持った運転を意識しましょう！

ゆとりがない運転は、注意力が散漫になり、交通違反や交通事故を起こしてしまうリスクが高くなります。

ゆとりがない運転をしてしまう要因は、「時間に余裕がない、車が渋滞している」などの環境的なもの、「イライラ、緊張、気分の落ち込み、気分の高ぶり」といった心境的なもの、とさまざまあり、その日の環境、気分、体調は、車の運転に大きく影響します。

例えば、イライラしていると「荒い運転」、眠気があったら「ふらつき運転」になりやすい傾向があります。

イライラするときは、「深呼吸して気持ちを落ち着かせる」、眠気があるときは「車から降りてストレッチをするなどの小休憩をとる」など、自分の感情を上手にコントロールするための対処法や、その日の体調に応じた運転の方法を考えておきましょう。

【スマート運転 ポイント その3】

● 駐車場で**バック駐車（スマート駐車）**を意識しましょう！

駐車場は、車や歩行者が行き交う場所で、時間帯によって交通量の変化が大きいという特徴があります。

また、駐車車両や建物などで運転席からは見えない部分（死角）が多く存在します。

「バック駐車」をすることで、「前向き駐車」に比べて死角が少なくなり、交通事故を起こすリスクが減少します。



信号交差点や一時停止場所では要注意！

交差点や交差点付近は、特に気をつけて運転しましょう

交差点や交差点付近では、車が相互に行き交うため、交通事故が単路に比べて多く発生しています。

特に信号交差点や一時停止標識がある交差点では、これを無視、見落としてしまうと大事故になりかねません。

停止線手前で停止することで、しっかり安全確認ができるようになり、見通しの悪い場所からの急な歩行者や自転車の飛び出し等に対処ができます。

二段階停止（交差点に入る手前で停止、交差点に入る直前で再停止）での安全確認が交通事故防止には効果的です。



D^ど ダイヤマークを見たら減速して安全確認！ 知っていますか？横断歩道のダイヤモンド

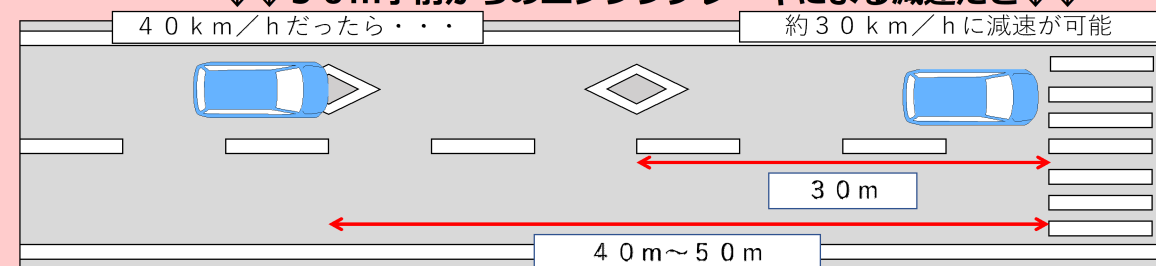


信号機のない横断歩道の手前には、道路にダイヤモンドが書かれています。

このダイヤモンドは、横断歩道から30m手前に一つ、40～50m手前にもう一つ設置されています。（場所によっては、30m手前の部分のみのところもあります。）

このダイヤモンドに気付いて、アクセルペダルから足を離すだけでも減速効果があり、安全確認をする時間の確保や横断歩行者と衝突時の被害軽減につながります。

～↓↓50m手前からのエンジンブレーキによる減速だと↓↓～



D^ど 防衛運転をやってみよう！

「かもしれない運転」を実践しましょう

交通事故の原因として、多くを占めるものは「脇見・動静不注視」です。動静不注視とは、相手の車の存在に気付いていたけれど、その動きに対する注意が足りなかったというものです。

動静不注視は、「まさか、・・・だろう」といった「だろう運転」により、起こります。

運転中は、「だろう運転」ではなく「**かもしれない運転**」を心掛けることで、周囲の車などに対する注意が保たれ、事故に備えた事前の動作をとることにつながります。



O^ど みんなで協力して交通事故**ゼロ**を目指そう！

交通事故ゼロを実現するためには、ドライバー1人1人が安全運転の意識を持つことが最も重要です。

「安全運転すっど！」を合い言葉に、小林・高原で安全運転の輪を広めましょう。